

経営比較分析表（令和元年度決算）

宮城県 陸塚村

業務名	業種・事業名	管理者の情報	自己資本構成比率（％）
法非適用	電気事業	非設置	該当数値なし
水力発電所数	ごみ発電所数	風力発電所数	太陽光発電所数
1	-	-	2
その他発電所数	料金契約終了年月日	F I T適用終了年月日	電力小売事業実施の有無
-	-	-	無
売電先	地産地消の見える化率（％）※1		
九州電力株式会社 日向営業所	-		

※1 行政区域内の需要家に小売されたことが客観的に明らかであるものを計上。なお、この基本情報をもって全ての地産地消エネルギーへの取り組みを評価するものではない。

年間発電電力量（MWh）	H27	H28	H29	H30	R01
水力発電	-	-	47	55	87
ごみ発電	-	-	-	-	-
風力発電	-	-	-	-	-
太陽光発電	-	-	-	-	124
合計	-	-	47	55	211

	F I T以外	F I T	合計
年間電灯電力量収入（千円）	-	5,347	5,347

剰余金の用途について（具体的な使用実績事業を記入してください）

・次年度繰越金として運営費用に充て、地域の生コン舗装の資材費や維持管理費等に支出し、地域活性化に繋げている。

分析欄

1. 経営の状況について

・令和元年度から太陽光発電施設2箇所が運営開始となり、発電量が増加し料金収入が増え、更に支出抑制により収益的収支比率と営業収支比率がともに100%を上回ったと考えられる。

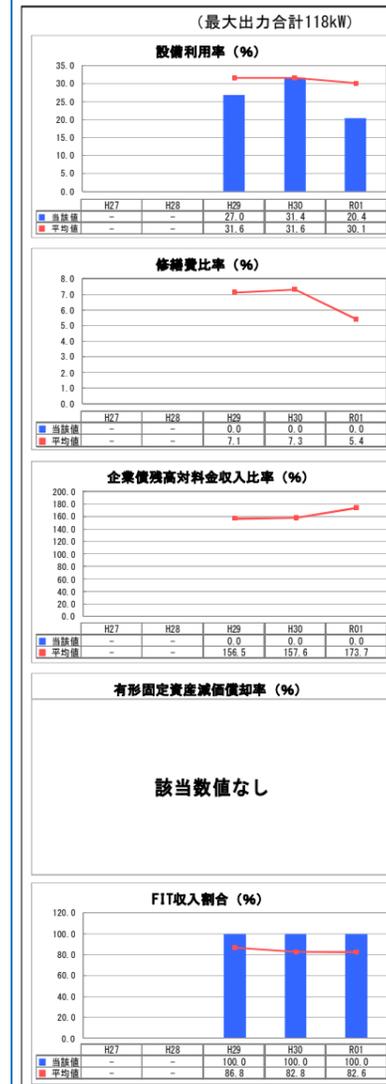
・今後も継続して、地域活性化に要する経費や施設更新に要する財源の確保について検討することとする。

1. 経営の状況

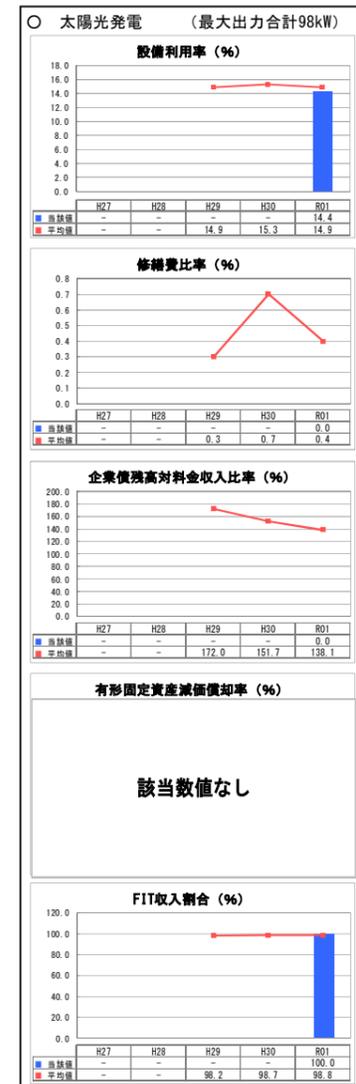
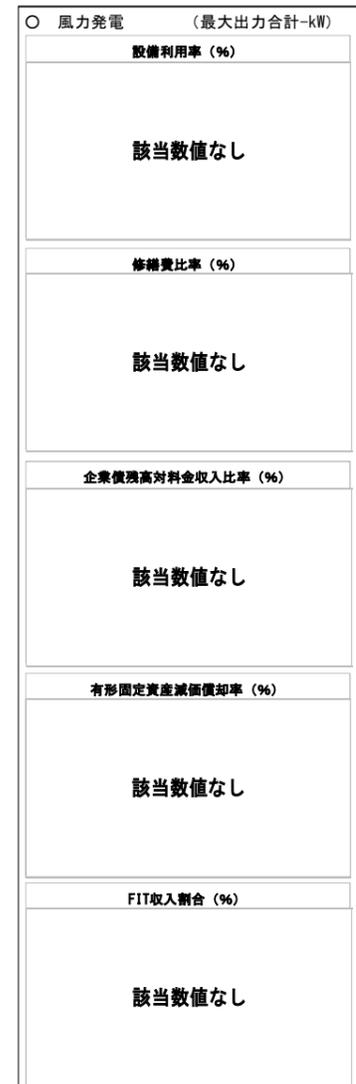
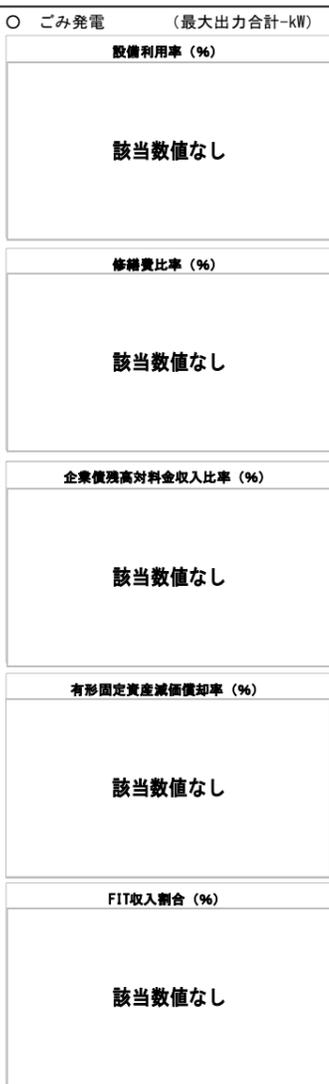
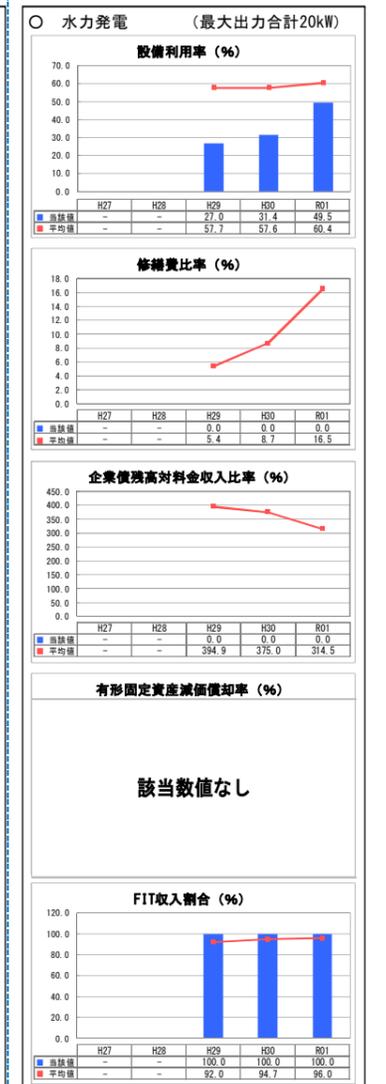


2. 経営のリスク

●施設全体



●発電型式別



2. 経営のリスクについて

・水力発電については、3年を経過し特段の修繕は生じていない。発電型式別の施設利用率については、平均値を下回る結果となったが、右肩上がり推移しているため、現状を下回らないよう最大出力20kWに近い発電量を維持することが課題である。

・太陽光発電については、令和元年度より事業開始したため、特段の修繕は生じていない。今後も維持管理等に努めていく。

全体総括

・水力発電は、事業運営を開始し3年を経過しているが大規模な修繕はない。平成30年度から本格的に水源地管理道の整備に取り組み成果が実りだしている。今後は、機材メンテナンスを実施していくことで、大規模な修繕を抑制し健全な経営に取り組んでいくこととする。また、本年度より運営開始となった太陽光発電についても機材メンテナンスを実施していくことで、大規模な修繕を抑制し健全な経営に取り組んでいくこととする。

・経営戦略については、令和2年度に策定する。

※ 平成27年度から令和元年度における各指標の全国平均値は、当時の団体数を基に算出していますが、設備利用率及び修繕費比率、企業債務高対料金収入比率、FIT収入割合については、令和元年度の団体数を基に平均値を算出しています。